

(国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (福島南高校出身)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

第一志望だった国立大学の試験で前期、後期共に不合格だったときからです。高校の先生から聖母に進んで3年次編入をするという方法もあると教えていただきました。そこで同じ大学にもう一度挑戦したいと思ったからです。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

1年の後期でキャリアデザインが進路別になり、その授業の中で編入試験の基礎知識や小論文を書く上で必要な社会問題に関する知識を身に付けられました。また、面接練習も頻繁にさせていただきました。編入した聖母の卒業生が来てくださり、アドバイスをしてくださったこともあります。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

1年の後期から始まったキャリアデザインの編入クラスで学習方法や内容について指導していただきました。志願理由書と小論文は9月の終わりからゼミの先生に添削していただきました。面接は夏休み中に4回、こども保育コースの先生にお願いしました。試験直前には行政政策学類の大学院を修了された先生に面接練習をお願いし、より具体的な質問に対応できるようにしました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

編入対策で努力したことは校内、校外問わず様々なプロジェクトやイベントに参加し、多くの経験を積んだことです。面接で他の人と差別化を図ることができるため、今からでもいろいろな経験を積むことをお勧めします。また、私は人前で話すことが苦手でしたが、自ら人前に出る機会もつくり、相手にわかりやすく伝えられるよう努めました。小論文は10月に本格的に書き始め、英語は1年の頃から単語や自分の長文の参考書に継続して取り組みました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

聖母の学びで力になったのはプランニング力です。1年のキャリア形成論で手帳について学びました。私はアルバイトを3つ掛け持ちしており、受験前も働いていました。時間がない中でどのように勉強時間を確保するのか、効率的な勉強をするにはどうすればよいのかを考える際、とても役立つ力だと思います。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

多くの経験を積んでおいた方が編入で有利だ、ということです。1年の頃から言われており、2年間そのことを念頭に置いて行動してきました。自分が積極的に行動しなければ知り合えなかった方々がいて、得られなかった興味や知識があります。これまでの全ての経験が今の自分を作ってくれたと思っています。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①第一志望の大学に落ちたことを引きずっており、

②これからどんな生活が始まるのかわからず、不安な気持ちでした。

③今の自分の力を出し切ることができれば良いと考え、あまり気負わないようにしていました。

④高1の秋から今まで、4年間頭にあった受験から解放された、という気持ちが強かったです。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

編入学は一般入試より少ない科目で受験できますが、筆記で得点できる力だけでなく特別研究や学校内外の活動で得た経験も必要になります。日常生活が合格に繋がるため高校生の時より精神的にきついと思います。しかし、その辛さが自分自身を成長させてくれたと自信を持って言えます。ぜひ自分を強く持ち、最後まで諦めずに勉強に励んでください。